

## 学年目標 個人として自立しよう

### 第3章 特別の教科道徳 第1 目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。(学習指導要領から)

### 11月の道徳授業より

#### 11月4日(水)5時間目 道徳「二人の約束」教材について

主人公「私」とユウコの間で「お互いが思ったことは、ちゃんと言い合っていこう」という約束が交わされる。約束通りに行動するユウコとは対照的に、相手を気遣いユウコの言葉を我慢し、戸惑う「私」の心情を通して、我慢することと「自律」することとの違いや「自律」の価値について自分と照らし合わせて考える。



#### 【「私」はどうして思ったことをはっきりユウコに言えないのだろう。】

という課題に対して、一人一人が自分の意見を発表していきました。

以下授業後の生徒の感想です。

○自分のクラスを見ても、自分から物事を考えて発言する人と、誰かの言うことに従うだけの人がいるため、みんなが意見を持ち、納得がいけないことには反対することが大切だと思った。

(宇佐美遼さん)

○二人の約束は間違っていないんだけど、どちらかが合っていなければその約束はやめた方がいいと思った。

(赤池稔々さん)

○自分が正しいと思っていたことを通していくことがどれだけ難しいのかがわかった。

(長谷川彰さん)

○物事をはっきりと言うことも大切だが、人の気持ちを考えて言うことも大切だと思った。しっかり人のことも考えて過ごしていきたい。

(藁科のあさん)

○約束は一人が有利ではなく、約束をした人全員が有利でないと約束として成り立っていないと思った。

(遠藤隼さん)

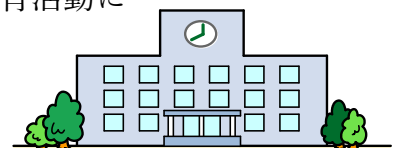
○僕自身も、よく相手の意見に流されることもありました。この話を読んで、自分の考えを持つという気持ち芽生えたと思います。

(石川敬梧さん)

思春期になると友人や自分自身に関することを深く考えながら成長していきます。

学校では、「自己の生き方を考える道徳教育」をめざして、日々の教育活動に取り組んでいます。

保護者の皆さん、ご家庭で「道徳」授業を話題にしてください。



## 生徒会活動より

1年生が入学後、6月から本格的な教育活動がはじまりました。令和2年が終わり、来年は2年生に進級します。学校生活では、生徒会活動の中心となり、西富士中の伝統を継承し、新たな文化をつくる立場となります。令和2年度後期生徒会スローガンと活動の柱を紹介します。

### 1年生 生徒会役員（庶務）を紹介します。



酒井琉輝さん



佐野ゆなはさん

### 令和2年度後期生徒会スローガン『進境』 今よりステップアップし、進歩した状態

#### ① 時間厳守 集中できる環境作り (西富士中スタイルより)

- 前の授業が終わったら、まず次の授業の準備をします。
- 移動教室の時は、遅れないように移動します。教室の施錠をしっかりとします。
- 授業は、特別な指示がない限り制服で受けます。
- 授業に必要なものは、忘れずにしっかり用意します。もし忘れたら、事前に教科担任の先生に伝えます。
- 授業開始1分前には着席し、30秒前には黙想します。

#### ② 中央委員会 生徒会組織をよりよく (生徒会規約より)

第15条 中央委員会は、総会に次ぐ議決機関である。

第16条 中央委員会は、役員、専門委員長、学級委員で組織し、必要に応じて副委員長・部長を含めて召集することができる。

第17条 中央委員会の議長は、会長が努める。

第18条 中央委員会は、毎月1回開くことを原則とする。但し会長が必要と認めた時は、臨時に開くことができる。

#### ③ 黙動清掃を徹底 落ち着いた生活

黙動清掃の目的は、学校をきれいにすることではありません。15分間、おしゃべりをしたい気持ちを我慢して、今日一日を振り返ること。つまり、自分と向き合うことです。周囲の仲間や先生や先輩・後輩など、そういった方々に『自分の姿勢』を見てもらうことだと思います。『目的』をしっかりともったうえで、西富士中に黙動清掃の文化を残してほしいと思います。

## 充実した冬休みを過ごしましょう。

あと5日間で、長かった2学期96日間が無事終了します。冬休みは10日間です。今年は外出計画もあまり立てられない状況ですが、各ご家庭で年末年始のご予定もあることでしょう。コロナウィルス感染予防・インフルエンザ感染予防に留意しながら、規則正しい生活を送ってください。

11月18日(水)5時間目 道徳「家族と支え合う中で」  
勤労感謝の日を前に、家族のことをテーマにした教材を  
選び、両親・祖父母へ感謝の気持ちが強くなるよう設定  
しました。この教材は、筆者「私」が、年老いて体の自由が  
きかなくなった祖母の世話をすることを拒否してしまった  
ことから、自分の身勝手さと自己中心的な言動に気づき、  
深く反省することから始まる。自分自身が幼い頃から家族に



支えられてきたことや、福祉施設での介護ボランティア体験などから、自分の弱さを乗り越え、これから何をし  
ていくべきかをよく考え、自分のとるべき方向を自発的に見出していく姿を描いている。

授業では、【「私」が積極的に祖母の世話をすることは、家族全体にとってどんな意味があるのだろうか。】という  
課題に対して、一人一人が自分の意見を発表していきました。また、【あなたは将来どんな家族をつくりたいだ  
ろう。】という問いも考えてもらいました。

以下授業後の生徒の感想です。

○今までの感謝の気持ちをいつでも伝えられるような家族をつくっていきたい。(井出侑月葉さん)

○父と母が年をとっても、生きる気力がなくならないように、明るく笑顔のあふれる家族をつくりたい。(橋本  
しいなさん)

○人のために行動できて温かい家族(清水姫依さん)

○みんなで協力して、つながりが強く、毎日笑顔があふれる家族(諸星聖奈さん)

○いつも笑顔な家族にしたい(佐野航太郎さん)

○家族全員思いやりの持っている家族をつくりたい。(磯村駿さん)

1 1 月 2 5 日(水) 5 時間目 道徳「木の声を聞く」

この教材は、木の声を聞くことをとおして木が持つ力を確信した樹木医である主人公・塚本こなみさんの樹木に寄せる思いを中心に、自然の生命の尊厳について考えを深めることができる教材です。

樹齢 1 5 0 年ほどの大藤の生命力を確信し、移植に取り組む

塚本さんの考えに触れ、自然と人間について考えました。



授業では、【樹木に祈りをささげ、その声に耳を澄ます、塚本さんの姿に何を学ぶことができるだろう。】という課題に対して、一人一人が自分の意見を発表していききました。また、【自然と人間が共存するために、できることを考えてみよう。】という問いも考えてもらいました。

以下授業後の生徒の感想です。

○助け合い。人間は自然に、自然から人間に (渡邊律樹さん)

○自然と共存するために、自然の気持ちになってみることや、自然の近くで生活してみることが出来ると思った。  
(宇佐美遼さん)

○両者が共に相手のことを思うために、相手への敬意を常に持って行動する。生きているもの全てに気持ちがあるので、「敬意」だけでなく、相手の気持ちを理解することが大切 (渡邊蕾斗さん)

○自然を見る角度を少し変えること。「命の先輩」と考えたり、「僕のおじいちゃんと同じ年」って考えたりすると個人的に仲良くなれそうな気分になるので、身近な存在に考えてみることでいいと思いました。(酒井琉輝さん)

○自然と人間が共生するためには、自然と人間が対等に見て、普段から自然を守り、大切にしていけるべきだと思います。(若尾椎奈さん)